

2020 年度

国 語
(3期)

(答はすべて解答用紙に記入すること)

(時 間 50分)

番 号		氏 名	
--------	--	--------	--

〔一〕 次の文章[A・B]を読んで、後の問いに答えなさい。(字数制限のあるものについては、すべて句読点や記号をふくみます。)

A 私は世界の誰だれよりも学問がくもんを想おもっています。

これはどういうことでしょうか？
「学問」^①って、するものじゃないのですか？

確かに学問は「する」ものであって「想う」ものではないと、多くの人は考えているでしょう。理工系として研究者人生を歩み始め、巡り巡って今は哲学てつがくの領域で思索しそくし活動する私が行き着いたのは、学問とは、既すでにある知識を勉強したり、それを誰かに教えたりするものではないということです。まして、世間でよく言われるように学問とは「問い学ぶ」ということではないと考えます。むしろ、「問いに学ぶ」^②です。

問いに学ぶとは？

「なぜ……なのだろうか」「……とは何か？」といった問い、すなわちあなたの興味や関心にしたがって学ぼうとすることはとても大事です。しかし、「なぜそのような問いを自分は持つのか」という問いこそが本当に意味あることなのです。

その本当に意味あることって、何でしょうか

^③ 人は誰しも幸せを求めます。では、幸せとは何でしょうか。一般的には、周りの人たちと良好な関係を持ち、衣食住の不安なく暮らすこと、としてもよさそうですが、それは「生活の満足」ということでしょう。そう考える人に対して、「では、その状態から少しでも外れたら不幸ということでしょうか？」と問えば、いや、そうでもないか……となると思います。^④ それに、そのような理想的と言える状態であっても幸せを感じられない人もいますしね。

つまり、本当に意味あることとは、幸せにつながるということ？

そうです。結局のところ幸せとは、いずれ死ぬ人間にとって自分の生を納得して生きること以外になく、幸せとは、自分という「存在」につい

て考え深めることなのです。であるからこそ、「なぜ……なのだろうか」という問いよりも「なぜそのような問いを自分は持つのか」という自分を見つめる視点こそが本当に意味あること、と言えるのです。

なるほど。問いに学ぶ、すなわち「学問」とは自分を知ることなのですね。

そうです。「問いに学ぶ」とは自分を知ること、「自分を知る」こととは自分の生を生きること。そして、「自分を知る」ということは、正しくは「自分という存在を知る」ということです。

(宮野公樹『学問からの手紙』より一部改変)

B ^⑤ 社会科学の目標は、どうしたら維持可能で住みやすい社会をつくることができるか、を考慮することにあります。^(注1)

これまで社会をつくるために使われてきた方法は、大きく分けて2とあります。1つは個人のポトムアップな自主性を重視する資本主義であり、もう1つは上からデザインする社会主義です。^⑥ 2つの方法は、どちらも満足する成果をあげていません。

私は、いま、この2つをどう統合していくかが求められています。具体的には、社会的な動物としての個人の行動があり、その行動によってどんな環境が生み出されるか、それを考慮に入れて社会をデザインしていかなくてはならないのです。^(注2)

^⑦ 私は、社会とか社会制度とは、人々が対人関係の中で取る行動の生み出す結果が予測可能になっている状態だと思います。つまり、こんなことをしたらまわりからどう言われるか、どう思われるか、どのような反応を生み出すかがある程度予想できているのが、広い意味での社会制度が存在している状態です。ある行動をしたときに、その帰結が予測できるのです。そして、こうした意味での制度をつくっているのは、おたがいに結果を読みあひながら行動している人たち全体の反応のパターンなのです。^(注3)

一人一人は、自分の行動がどんな社会的な帰結を生むかを予想しながら、行動しています。その結果、人々が同じような原理で行動すると、行動のパターンが生まれてきます。そうすると、予測が本物になったり、変わってきたりします。そして、自分の行動の予測について、ある程度理解し信念を獲得することになります。予測される行動パターンについての信念がしだいに共有されることで、同じ予測にしたがって行動している他人の行動の予測がますます確実になります。このようにして生みだされ維持されている、共有された(人間や社会についての理解である)信

念と行動パターンが文化であり、この点では文化と制度とはほとんど同じものです。^⑧

では、共有された信念にもとづく行動が制度を生む、という知識をどのように使って、制度設計をすればいいのでしょうか。

たとえば、制度を変えるために信念を変えとします。しかし、信念は現実の反映ですから、現実をそのままにしておいて、信念が変わるわけはありません。では、現実を変えるためにはどうすればいいか？ 現実はある信念をもって行動する人間が作りだすものですから、信念が変わらないと行動は変わらないし、さらに現実は変わりません。「中略」

人々がよい心をもっていれば社会はうまくいくとか、よい法律をつくれれば社会はうまくいくような考え方をしているかぎり、社会はよくなることはないと思います。

①社会は意図してできるものではない。

②意図しない結果が複雑に絡みあつて、1つのマクロな現象が生まれる。^(注5)

この2つの社会科学の基本をベースに考えていくことが大切だと、私は思っています。^(注6)

少し細かく言うと、

①社会は一人一人がある信念、価値をもつてとる行動の単純な集積ではない。

②一定の行動パターンができると、それを前提としないで行動することができなくなる。^⑨
となります。

②では、安定した行動パターンができ、それがルール（自分がある行動をすると何が自分の身に生じるかについての予測）になっているということができません。

（岸俊男「生きている社会、そのながめ方・つくり方」、小川葉子・太田邦史編『生命デザイン学入門』所収より一部改変）

(注1) 維持：同じ状態のまま持続すること。

(注2) ボトムアップな：下から湧き上がってくるような。

(注3) 考慮に入れて：考えに入れておいて。

(注4) 帰結：行動などが最終的に落ち着くところ。

(注5) マクロな：巨大な。

(注6) ベース：基本・土台。

問一——線①「学問」って、するものじゃないのですか？」とありますが、ここで思い浮かべられている「学問」をするとは、例えばどういうものですか。文章[A]から二十五字以上三十字以内でぬき出し、その始めと終わりの三字を答えなさい。

問二——線②「問いに学ぶ」の例としてもっともふさわしいものはどれですか。次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア どうして逆上がりができる人とできない人が出てきてしまうのかについて、あらためて問題意識を持ち、専門家に問うてみることに。

イ ボランティアの大切さを多くの人に考えなおしてもらうため、それが人間の独自の行動であることを、事例をもとに問いかけることに。

ウ K-POPアイドルの流行がどうして起こったのかを、これまでの韓流ブームに関する研究を読み直し、あらためて問うことに。

エ なぜ太陽は東から昇り西へ沈むのだろうか、という自分の疑問が、そもそもどこからやって来るのかということから、問いなおすことに。

オ 「雨ニモマケズ」の詩に感動し、この作品の何がそのような感動を生むのかを、表現に着目して読み直すことで問うことに。

問三——線③「人は誰しも幸せを求めます。では、幸せとは何でしょうか」とありますが、本文のなかで筆者が考えている「幸せ」とは何ですか。二十五字以上三十字以内で説明しなさい。

問四 — 線④「それに、そのような理想的と言える状態であっても幸せを感じられない人もいますしね」とありますが、なぜ人はときに「そのような理想的と言える状態」に幸せを感じられなくなるのでしょうか。衣・食・住のどれかを例に出して、あなたの考えを自由に述べなさい。

問五 — 線⑤「社会科学の目標は、どうしたら維持可能で住みやすい社会をつくることができるか、を考えることにあります」とありますが、同様の目標は二〇一五年九月の国連サミットでも採択されています。その目標をアルファベット四字で何と言いますか。次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア SDGs イ NATO ウ HTML エ LORa オ ADSL

問六 — 線⑥「2つの方法は、どちらも満足する成果をあげていません」とありますが、この「2つの方法」は「資本主義」と「社会主義」を指します。筆者はそれらが、結局のところうまくいっていないと指摘します。筆者がこのように指摘するのはなぜでしょうか。「資本主義」と「社会主義」の〈定義〉を次のようにするとき、その〈理由の説明〉としてもつともふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

〈定義〉

・資本主義……個人それぞれの欲求にしたがった行動が、何より優先される社会をつくる方法。
・社会主義……政府があらかじめ個人の行動に関するルールを定めることで社会をつくる方法。

〈理由の説明〉

ア 筆者は社会的なルールを、集団の行動パターンを研究することで定めなければならないものと見ており、「2つの方法」はデータが不足した状態での社会のつくり方だったから。

イ 筆者は社会を、個人の自由な行動によって自然にルールが定まり、また豊かになっていくものと見ており、「2つの方法」は人間の力を軽く捉えている社会のつくり方だったから。

ウ 筆者は人間を、社会性を持ちながら個人的な欲求をかなえようとする二面的な存在として見ており、「2つの方法」はそのどちらか一面しか重視しない社会のつくり方だったから。

エ 筆者は社会を、個人に自由を感じさせながら、実は制限されている状態を成り立たせるべきと見ており、「2つの方法」はその点が見落とされた社会のつくり方だったから。

オ 筆者は人間の行動パターンを、個人の欲求と社会的な制限が折り合いをつけたところに生まれるものと見ており、「2つの方法」はそれへの理解がない社会のつくり方だったから。

問七 — 線⑦「私は、社会とか社会制度とは、人々が対人関係の中で取る行動の生みだす結果が予測可能になっている状態だと思います」とありますが、筆者は社会制度を、何によって作られ維持されるものと考えていますか。 — 線⑧をヒントにして、次の中からもっともふさわしい説明を一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人々がめいめいに持つ理想にもとづき行動し、それによって生まれる行動パターン。

イ 人々がそれぞれで他の人を意識しながら行動し、それによって生まれる行動パターン。

ウ 人々がお互い^{たが}を助け合う意志によって行動し、それによって生まれる行動パターン。

エ 人々が相反する利益を得ることを目標に行動し、それによって生まれる行動パターン。

オ 人々が信念レベルでの読み合いをしながら行動し、それによって生まれる行動パターン。

問八 — 線⑨「一定の行動パターンができると、それを前提としないで行動することができなくなる」とありますが、これはどういうことですか。次の中からもっともふさわしい説明を一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自由に行動しようとしても、その自由は行動パターンにどれだけ当てはまるかによって決まることになるということ。
- イ 正しい行動をしたつもりでも、その正しさは行動パターンを変える力を持つまでにはならないということ。
- ウ 自主的な行動をしたつもりでも、それは行動パターンによって知らないうちに指図されたものになるということ。
- エ 新しい行動パターンを生みだそうとしても、自分一人ではその行動パターンから離れることはできないということ。
- オ いくら不誠実な行動をしても、それは行動パターンの一つとして扱われてしまい、まったく問題にならないということ。

問九 筆者はこの本文の後で、さらに次のような〈事例〉を挙げて、それがうまくいかないと述べます。筆者がそのように述べるのはなぜでしょうか。その〈理由〉の「 」「 」に入る言葉を、文章⑩から八字でぬき出しなさい。

〈事例〉

最近、「人々に道徳教育をして、清く正しい心をもたせれば、社会はうまくいくはずだ」という主張が大声で語られ、その教育がはじまろうとしています。この主張は「社会が悪くなっているのは、人々の倫理観が崩れてきたからだ。だから、心を清くすれば、社会はよくなる」というものです。

〈理由〉

社会制度を変えるために、道徳だけを教えようとしても、そもそも「 」「 」なのであり、社会をそのままにしても、うまくいくはずがないから。

問十 文章[A]は、学問をする上で、問う自分への意識を高めることの大切さが書かれた文章です。このことは、他人の学問に触れるときにも、問いかけていきたい大切なポイントになります。では、文章[B]からは、筆者がどのような問題意識を持っている人だと読み取れるでしょうか。次の中からもっともふさわしい説明を一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 他の人と共に生きながら自己実現を目指したいが、今の社会の成り立ちではそれができないという問題意識をもっている人。
- イ 誰もが幸せな社会の実現を目指したいが、今の社会には経済的な豊かさしかないという問題意識をもっている人。
- ウ 維持可能な社会の実現を目指したいが、今の社会は長期的なプランを考えていないという問題意識をもっている人。
- エ 自主的な行動が許される環境の実現を目指したいが、今の社会デザインではそれができないという問題意識をもっている人。
- オ 予測によって行動できる自己を目指したいが、今の社会ではそれに対する理解がないという問題意識をもっている人。

〔二〕

次の文章を読んで後の問いに答えなさい。(字数制限のあるものについては、すべて句読点や記号をふくみます。)

光が柔らかくなると、水平線のある海辺の町の町のことを思い出す。急傾斜の石の階段が町のあちこちにあつて、どの通路も海へと続いていた。突堤の先には白い灯台。天気の良い日には、糸を垂れる釣り人が、身動きもせずに岸壁に貼り付いていた。

「みいちゃん、宿題はしたかね。終わったら海に行くよ」

突然声がして、しわくちやの顔が現れるので私はびっくりしてしまふ。おばあさんは足音を立てずに歩く人なのだ。足袋ソックスにぺったんこのゴム草履を履いて、いつも灰色の割烹着を着ている。その姿がどこかカメラみたいに見えた。

おばあさんに誘われたら私は絶対には断らない。ふたたび海に行くのが好きなのだ。私たちは、そろって家を出る。おばあさんの歩調に合わせてのつたりのつたり階段を下りて行く。眼下に黒い屋根瓦が光る。どの家からもワカメや魚を干すにおいがする。

「この道、生臭いよ」と言うと、おばあさんはふふつと笑う。

「生きてるものはみんな生臭いもんだ」

そんな会話をしていると、重なり合った家々の間からふいに青い海が開けるのだった。

中学一年から三年生までの間、春休みというとき、おばあさんの家に来た。彼女は父の母親で、もう長い間ひとり暮らしで暮らしていた。私たちがいる東京が嫌いで、あんな街に住んだら、明日死ぬよと言う。だからおばあさんが東京に来たことは一度もなく、私たちのほうから「行くよ」と訪ねて行くのだった。

〔中略〕

最初の春、おばあさんに関して私が知ったことは以下の三つだった。

一つ目。おばあさんの名前は元子というが、町の人は「キンちゃん」と呼んでいた。

「なんでキンちゃんなの？」と尋ねると、「舟の名前」と言った。おじいさんが持っていた舟が「金時丸」という名だったことから、おじいさんが死んだあと、みんなが「キンちゃん」と呼ぶようになったのだそうだ。「金時丸」なんて笑っちゃう名前だけれど、おばあさんは街の野良猫に全部、なんとか丸という名前を勝手に付けていた。茶々丸、黒丸、鈴丸、蘭丸、ジロ丸など。なんでも丸を付けるのが好きなのだ。

二つ目。おばあさんは、とんでもないコレクターだった。台所の棚にはいくつも瓶や壺が並んでいて、それもジャンルごとに白いラベルが貼つ

であった。「梅干し」「梅酒」「しそ漬け」「乾燥ワカメ」「芋焼酎」など。それも何年も前のものがずらりと並んでいる。中には形の無いどろどろの黒いものもあって「これ、何？」と聞くと「死なない薬」と答えた。キノコを煎じて煮詰めたものだそうだった。

コレクションは家の一番北側にある物置の中にもあった。すごい量の紙箱が積み上げてある。全部「きれいなお菓子の箱」だそうだが、花柄のチョコレートの箱も和菓子の木箱も原形をとどめず、茶色の染みやカビにまみれていた。

③ 三つ目。おばあさんは働きのものだ。毎朝早く起きて、ごそごそと何かしている。いつだったか、朝の五時ごろ台所の床に這いつくばって、こぼした豆を拾っていた。一粒でもなくすと気分が悪いのだそうだった。その日の朝はワカメ入りのグリーンピースご飯だった。これまで食べたことのないしょっぱい味がした。

④ いつだっておばあさんの家には不思議なものがある。私たちは不思議の家で不思議なものを食べていた。

その年の春休みも、私はおばあさんの家に来ていた。台所のテーブルの上にはいつ取ってきたのか、桜の花が山ほど積み上げられ、すぐ横に茶色の大きな甕があった。「みいちゃん、手伝うかい」とおばあさんは言い、私は漫画本を閉じて「うん」と台所の椅子に座る。

「これ、どうしたの？」

「隣のタケちゃんちの大島桜だ。⑤ 勝手にむしつてもいいことになっている」

隣のタケちゃんちというのは、庭を隔てた家のことで、うちのおばあさんよりはるかに年上のおばあさんが暮らしている。もとは海女だったそうだが、干し柿みたいに粉をふいた顔をしていた。そのタケちゃんちの庭に古い桜の樹があつて毎年たくさんの花を咲かせる。ちょうど満開時で、台所の窓から枝がゆさゆさと揺れているのが見えた。「桜、何に使うの？」

「塩漬けにして、一年をかけてゆつくりと食べるのさ」

「桜って塩漬けにするの？ 漬物になるの？」

私は、またまたびっくりだ。おばあさんは得意気な顔になり、⑥ ツツと立ち上がると棚の扉を開き、コレクションのガラス瓶をいくつか出してきてた。

「これ、なんだかわかるかい？」

中には茶色の和紙みたいなものがくしゃくしゃになって入っていた。桜の葉の塩漬けだそう。桜が食料になるなんて。眺めながら私は思う。この世にはなんてたくさん知らないことがあるんだろう。ここにいと、知らないことが足元からどんどんわいてくる。

〔中略〕

翌日は、朝早く台所からいろんな音がした。棚を開け閉めする音、鍋やバケツを動かす音、皿が触れ合う音、勢いよく水を流す音もした。

「おはよう」と起きていくと、おばあさんは頭に手ぬぐいを巻いて、シンクで大量の白い粉を洗っていた。かたわらでは釜が蒸気を噴き上げている。別の鍋の中では、あずきがふつふつと煮立っていた。まだ肌寒いというのに、おばあさんは鼻の頭にいっぱい汗をかき、「みいちゃん、早く朝ご飯食べな」と怒鳴るように言った。

⑦ 昨日も戦争みたいだったけど、今日も似たような一日になりそうだと、私はあわてて朝ご飯を食べる。ワカメのみそ汁に大根の漬物、それに甘い卵焼きとイカの煮物。私が食べている間、おばあさんは、水に浸した桜の葉を指でつまみ上げ、それを一枚一枚丁寧に皿の上に広げていった。

私は後にも先にもあんなにたくさん桜餅を見たことがなかった。蒸し上がった白い粉は道明寺というそうだ。それに食用色素を入れてピンク色に染まったものを小さくちぎりながら、掌で丸く薄く伸ばしていく。出来た皮の間にあんをはさむのは私の役目。最後に全体をくると塩漬の桜の葉で巻いていくのだが、葉脈を透かした褐色の桜の葉は、薄いピンク色の胴体にぴったりと貼り付いていった。

そんな桜餅が、テーブルに用意された大皿に十個、二十個、三十個と行儀よく並べられていく。五十個、六十個……私たちは黙々と作り続ける。台所はピンク色の洪水だ。頭がくらくらした。桜の葉のにおいで酔いそうだった。

「さあ、できた」とおばあさんが宣言したのは、昼をかなり過ぎたころだった。

私たちはそれを重箱に詰め、風呂敷に包んで、海の見えるおじいさんの墓にお供えに行った。墓参りが終わると近隣の家々に配った。あんなにあった桜餅はあつと言う間に減っていった。

「最後は、タケちゃんちだ」とおばあさんは言った。「タケちゃん、いるかい」おばあさんが庭を横切って裏口から声をかけると、タケちゃんは転がるように家から出てきた。まるで桜餅が届くのを待っていたような早さだった。

⑧ 私は何度もその日のことを思い出して笑う。ふたりのおばあさんが桜の樹の下で海に向かってべたんと座り、一つまた一つ、ゆっくりと桜餅を食べていた光景を。かたわらにはどこから現れたのか茶々丸やジロ丸が寝そべっていた。

「今年も食べられたね」

「来年はどうかね」

「ふん、来年のことなんかからんよ」

猫の頭を撫でながら言い合っているふたりのおばあさんの口が、うにうに、くちやくちやと動き、ときには意味不明の言葉に変換される。それを聞きながら、私もたくさん桜餅を食べた。淡いピンク色の花が頭上にゆさゆさ揺れて、空には白いカモメが浮き沈みしている。それを縫うように、漁船の汽笛がのんびりと届いてきた。

あの春がなつかしい。もう一度猫たちと一緒におばあさんの桜餅を食べたいと思う。しかし、その望みは果たされないだろう。タケちゃんの大島桜は、私が大学生になった年、害虫にやられて枯れてしまった。

その春、おばあさんから来た手紙には、「このごろ、よく腹が減ります」という近況報告の最後に、「来年もあると思うな桜花」と、ぐにやぐにやした文字が書き付けてあった。

(稲葉真弓「おばあさんの桜餅」より一部改変)

(注1) 突堤：岸から海に突き出た堤防のこと。

(注2) 芋焼酎：お酒の一種。

(注3) 海女：海に潜り漁をする女性。

問一 — 線①「おばあさんの歩調に合わせてのつたりのつたり階段を下りて行く」について、次の問いに答えなさい。

(1) 「のつたりのつたり」という語は、「おばあさん」の動作のゆっくりさを表現すると同時に、「私」が「おばあさん」に持つ、あるイメージを強調する働きがあります。そのイメージとは何ですか。本文から一語でぬき出し、答えなさい。

(2) 「のつたりのつたり」のような語を何と言いますか。次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 外来語 イ 並立語 ウ 色彩語 エ 擬態語 オ 幼児語

問二——線②③として挙げられたそれぞれの「おばあさん」について「私が見つけたこと」をまとめると、さらに、「おばあさん」のどのような特徴が見えてきますか。次の中からもっともふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア こだわりが強い イ きれいな好き ウ だらしない エ 料理好き オ さみしがり屋

問三——線④「いつだっておばあさんの家には不思議なものがある」とありますが、これはどういうことを表していますか。次の中からもっともふさわしい説明を一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「おばあさん」の家では、たびたび不安になってしまうということ。

イ 「おばあさん」の家では、しばしば奇妙なものを食べさせられるということ。

ウ 「おばあさん」の家では、ふと自分の非常識を実感するということ。

エ 「おばあさん」の家では、まれに自分の日常が一変するということ。

オ 「おばあさん」の家では、絶えず知らないものに出会うということ。

問四——線⑤「勝手にむしってもいいことになっている」とありますが、なぜ「おばあさん」は勝手にむしっていいと思っているのですか。次の中からもっともふさわしい説明を一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「タケちゃん」は「おばあさん」に桜の木を任せれば、利益が得られるとひそかに喜んでるから。

イ 「タケちゃん」は「おばあさん」が葉をむしってくると、桜の木がきれいになるので都合だから。

ウ 「タケちゃん」は「おばあさん」と毎年桜餅を食べる仲で、お互いのことがわかっているから。

エ 「タケちゃん」は「おばあさん」の人柄だと、むしるときには一声かけてくれると安心して居るから。

オ 「タケちゃん」は「おばあさん」が作る桜餅が、世間的にとってもおいしいと評価されていることを知っているから。

問五——線⑥「おばあさんは得意な顔になり」とありますが、なぜ「おばあさん」は得意な表情になったと考えられますか。次の中からもふさわしい説明を一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「わたし」の表情だけで、知らないことを教えることができていることがわかり、満足したから。

イ 「わたし」が驚き、興味を持ってくれたことが手に取るようにわかり、うれしくなったから。

ウ 「わたし」の声の調子を、わくわくしたものに替えることができ、自分の気持ちも高まったから。

エ 「わたし」が最初から、お手伝いに乗り気な様子を見せてくれたことで、愛おしくなったから。

オ 「わたし」が素直に教えてほしいと言ってきたので、先生の気分を味わうことができたから。

問六——線⑦「昨日も戦争みたいだったけど、今日も似たような一日になりそうだと、私はあわてて朝ご飯を食べる」とありますが、なぜ「私」はそう予想したのですか。説明しなさい。

問七——線⑧「私は何度もその日のことを思い出して笑う」とありますが、ここには今の「私」のどのような思いが表れていますか。次の中からもつともふさわしい説明を一つ選び、記号で答えなさい。

ア その光景をほほえましく思うと同時に、今はもう味わえないとなつかしがる思い。

イ その光景が一日限りだったことを残念がると同時に、そうした現実にながかりする思い。

ウ その光景を美しく思い返すと同時に、これからも見ていきたいものだと求める思い。

エ その光景に浮かび上がる「おばあさん」の笑顔にうれしくなると同時に、心がほぐれていく思い。

オ その光景が絵画のようだと思うと同時に、その後の別れに心が痛くなる思い。

問八——線⑨「来年もあると思うな桜花」には、「おばあさん」のどのような思いが表れていると考えられますか。説明しなさい。

〽線A「大島桜」は、数ある桜の一品種です。日本人は、昔から桜の花を好み、文学にも多く取り上げてきました。和歌と桜をめぐる次の文章の「1」～「6」に入るもつともふさわしい語を、それぞれ後のア～スの中から一つずつ選び、記号で答えなさい（ただし同じ記号は一度しか使えません）。

現存する、日本でもっとも古い歌集である「1」は、「2」時代に作られました。新元号「令和」は、この歌集の中の作品から取られたと言われています。実は「2」時代までは、和歌では梅の花が好んで歌われていて、「1」においても、花では桜の花よりも梅の花の方が多く歌われています。それが次の「3」時代になると、和歌で桜を歌う例がだんだん増えていきます。「3」時代の前期に天皇の命令で作られた『古今和歌集』では、梅より桜を歌った歌の方がかなり多くなっています。この歌集は紀貫之や紀友則らによって編集されました。その紀友則に、桜の花を詠んだ有名な歌があります。

〔現代語訳〕

おだやかな光が差す春の日なのに 落ち着いた心もなく「6」

ひさかたの光のどけき春の日にしづ心なく花の散るらむ

この歌は、鎌倉時代のはじめに藤原定家が編集したという「4」にも取られています。かるた遊びで親しんでいる人も多いでしょう。「ひさかたの」は、下の「光」にかぶさる「5」です。「光」のほか、「天」「空」「月」など、天に関係することばにかぶさります。「5」は、このように特定の言葉にかぶさって、歌の調子をととのえたりする役目があり、歌を現代語に訳すときには訳さないことが多いのです。「しづ心なく」は「落ち着いた心もなく」、「花の散るらむ」は「6」という意味です。

ア 掛詞 イ 序詞 ウ 枕詞 エ 平安 オ 奈良 カ 室町

キ 「(やはり)桜の花は散ってゆくべきだ」 ク 「(どうして)桜の花は散ってゆくのだろう」

ケ 「(ゆっくりと)桜の花は散りゆくのだろう」 コ 「(けっして)桜の花は散らないだろう」

サ 『奥の細道』 シ 『万葉集』 ス 『小倉百人一首』

問十 } 線B「蒸し上がった白い粉は道明寺どうめいじというそうだ。それに食用色素を入れてピンク色に染まったものを小さくちぎりながら、掌ひらちで丸

く薄くうす伸ばしていく」とありますが、一般的いっぱんてきにも桜餅さくらもちの生地生地の部分は食用色素を使ってピンク色をつけます。どうして、わざわざピンク色をつけるのでしょうか。あなたの考えを述べなさい。

〔三〕 次の――線部について、カタカナは漢字に、漢字はひらがなに、それぞれ改めなさい。

- ① 神社をサンパイする。
- ② シンショウボウダイに騒さわぎ立てる。
- ③ 彼はシンキイッテン、がんばり始めた。
- ④ 農業をイトナむ。
- ⑤ アヤツリ人形。
- ⑥ 俵はたけを持ち上げる。
- ⑦ 養蚕ようさんに適した家。
- ⑧ 助すけっ人として重宝じゆうほうされる。

